

のぞき見シャツアウト

赤外線盗撮から女性を守る

染色技術で犯罪防止

海辺やプール、スポーツの場で水着などをまとった女性を赤外線カメラを使って透過撮影する盗撮行為が近年問題になっている。染色加工業の朝倉染布（桐生市浜松町二丁目、朝倉剛太郎社長）はこうした行為から着用した人を守るため、赤外線吸収することで透過を防ぐ染色加工法を開発。染料メーカーとともに特許出願した。同社では「不当な犯罪を防ぐことで（水着の）市場を守りたい」としている。

**朝倉染布
特許出願**

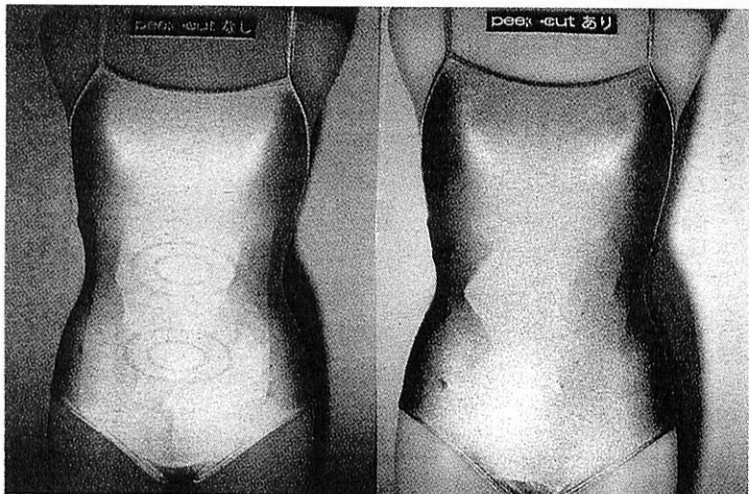
「水着市場守りたい」

赤外線盗撮は、可視光線よりも波長が長く、物体を透過しやすい赤外線の特性を悪用し、被写体を撮影する行為。水着やシャツなど薄手の生地を身につけた人が撮影されると、体が透けて見える。水着を中心とするスポーツ衣料の染色加工は、本業とする朝倉染布は、盗撮が水着の市場を縮小

させかねないと憂慮。約3年前から赤外線を通さない染色加工法の模索を始めた。他の素材に應用するための研究を進めている。中国や東南アジアでも特許出願したい考え。

研究の結果、特殊な成分を加えることで染料が赤外線を吸収し、盗撮を防げることが判明。染料メーカーの山田化学工業とともに実用化に向けた開発を進め、5月に同社とともに特許出願した。特許の持ち分は1対1。

朝倉社長は「この仕事にかかわる者として、スポーツやスイミングをしている人が安心して専念できる環境をつくる責任を感じていた。役に立っている部分が増えると思う」と話している。



盗撮防止加工を施した水着(右)は裏に張った模様は透けていないのが分かる(赤外線カメラで撮影)

加工法は「のぞき見を絶つ」意味合いを込め、英語で「ピープカット(PEEP CUT)」と名付けた。専門機関の品質評価試験にも合格し、効果が証明されている。

酸化チタンなどの金属を糸に練り込むなどして赤外線を防ぐ方法は既に存在するが、コスト高で色展開にも制限があるなどの問題点があった。今回の加工法は、ほぼフルカラーでの染色が可能で、従来の方法と比べると比較的安いコストで盗撮防止機能を得ることができるといふ。

加工を施せるのは現在のところ、ナイロン素材のみ。ポリエステルなど